



# 鹿児島大学発 最新の感染症研究とコホート研究プラットフォーム ～社会実装に向けた企業との共同研究もご紹介～

南九州・南西諸島域イノベーションセンターの紹介及び  
メディカルイノベーションチーム（K-med）の取り組み

2025年11月14日

鹿児島大学 学長補佐（社会連携担当）  
南九州・南西諸島域イノベーションセンター／副センター長  
教授 村上 加奈子



## 9学部・9大学院からなる総合大学

### 〈学部〉

- ・法文学部
- ・教育学部
- ・理学部
- ・医学部
- ・歯学部
- ・工学部
- ・農学部
- ・共同獣医学部
- ・水産学部

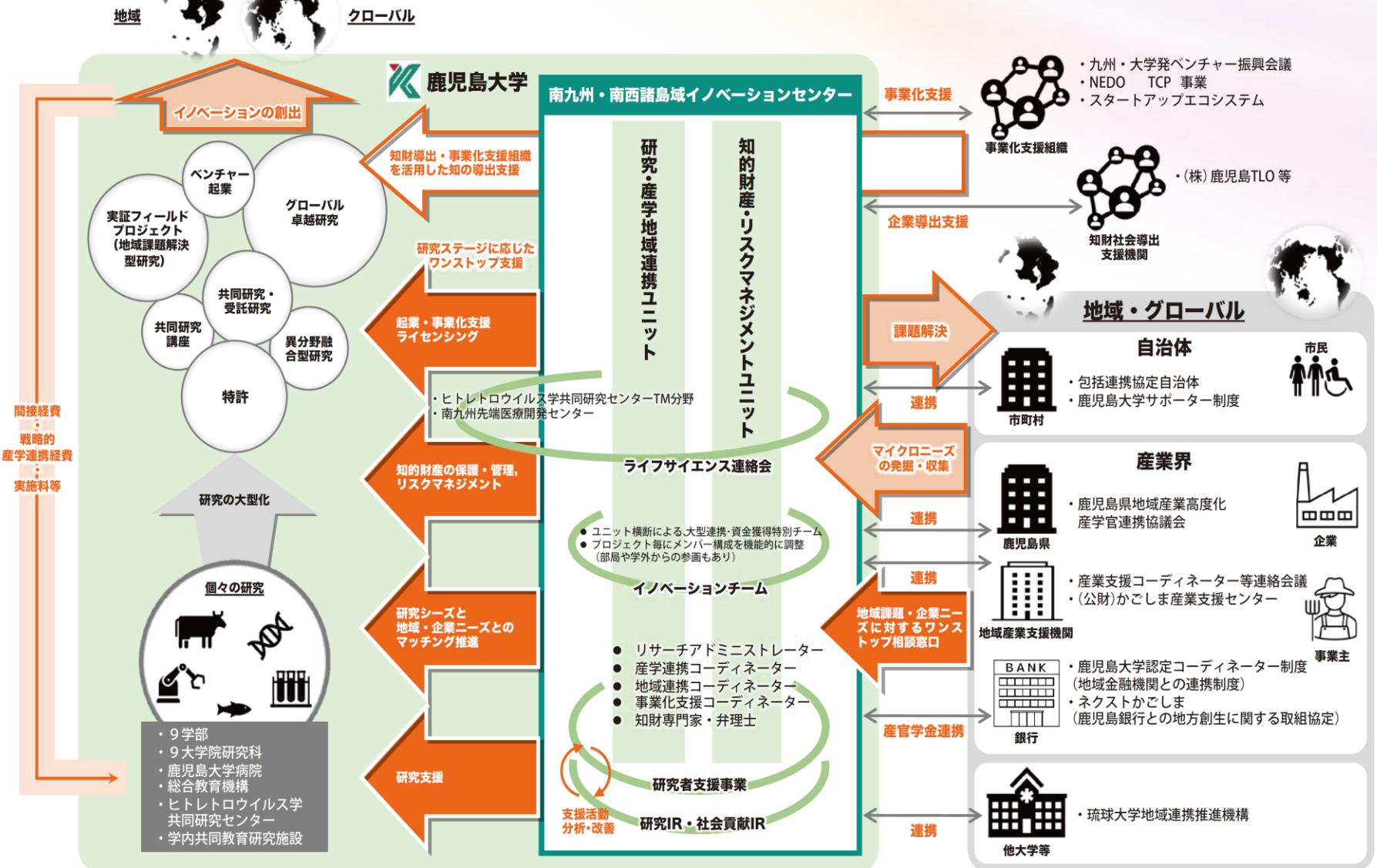
### 〈大学院〉

- ・人文社会科学研究科
- ・教育学研究科
- ・保健学研究科
- ・理工学研究科
- ・農林水産学研究科
- ・医歯学総合研究科
- ・臨床心理学研究科
- ・共同獣医学研究科
- ・連合農学研究科



教職員数： 約4千人  
学生数： 約1万人（学部生+院生）

## ～研究から社会導出まで一体的で切れ目のない支援体制～



## 目的

創薬や医療機器等のメディカル分野の実用化を目指すプロジェクトチーム

## 体制

ユニット横断型のメンバーで構成。他メンバーと連携し情報共有化。

- 南九州・南西諸島域イノベーションセンター
  - ・研究・产学地域連携ユニット
  - ・知的財産・リスクマネジメントユニット
- ヒトレトロウイルス学共同研究センター
  - ・トランスレーショナルメディシン分野（兼務教員）

## 内容

研究支援から社会導出までをワンストップで支援

- ・外部資金獲得支援
- ・ベンチャー設立支援
- ・研究・知財相談会の開催
- ・技術移転先企業の探索及び展示会出展
- ・他機関と連携したメディカル分野セミナーの開催





# 社会実装を目指す医療系研究シーズ紹介

開発ステージ	標的探索段階	候補品探索・研究段階	In vivo/Ex vivo試験	臨床試験	プラットフォーム/社会実装
感染症	低分子化合物 ワクチンアジュバント 若尾 雅広 助教	低分子化合物 HIV 前田 貢治 教授	細胞性免疫ワクチン デング熱 小原 恒子 教授		
		低分子化合物 COVID-19/インフルエンザ レブリコンスクリーニング系 池田 正徳 教授	低分子化合物 COVID-19 岡本 実佳 特任教授 (東京理科大学と共同研究)		
		低分子化合物 HTLV-1, HAM 兒玉 大介 医師	低分子化合物 HTLV-1, HAM 野妻 智嗣 講師		
地域コホート					多職種連携コホート研究 (垂水研究) 大石 充 教授
					介護予防/認知症予防 牧迫 飛雄馬 教授
癌		細胞治療(Mφ) 固形癌 原 博満 教授	医療機器 消化器がん 佐々木 文郷 講師 (物質・材料研究機構と共同研究)	遺伝子改変ビフィズス菌 固形癌 谷口 俊一郎 特任教授	
難病・その他		抗体(ADC) 炎症性腸疾患 伊東 祐二 教授			
		低分子化合物 疼痛、うつ 栗原 崇 准教授			
再生医療		細胞治療 顎骨萎縮症 他 末廣 史雄 講師			
創薬支援技術		インシリコ創薬技術 石川 岳志 教授	動物モデル 消化器がん 佐々木 文郷 講師		
創薬基盤技術		抗体薬物結合技術 伊東 祐二 教授			



[https://seeds.krcc.kagoshima-u.ac.jp/seeds\\_info/](https://seeds.krcc.kagoshima-u.ac.jp/seeds_info/)

\*全学2800のシーズを公開！

➤ QRコード



## 1. 感染症研究

現行生ワクチンによる病態増悪化を回避できる  
新型デングウイルスワクチン開発

共同獣医学部附属越境性動物疾病  
制御研究センター/センター長  
小原 恭子 教授

抗ウイルス薬の研究開発と新型コロナウイルス  
感染症への応用

先端科学研究推進センター 感染制  
御研究部門  
岡本 実佳 特任教授

## 2. コホート研究

多職種連携コホート研究（垂水研究）から社  
会実装へ

大学院医歯学総合研究科 心臓血  
管・高血圧内科学  
大石 充 教授

介護予防および認知症予防に向けた早期発  
見・早期対策の実証研究

医学部保健学科  
牧迫 飛雄馬 教授



# 施設紹介：スピルオーバー感染制御研究施設



※令和8年度から入居可

## 施設の目的

新興・再興ウイルス感染症、プリオン病等を対象とした種の壁を乗り越える感染症（スピルオーバー）の発生予測から診断法、不活化法、感染予防法など実用化の先回り研究を推進することを目的として整備されたものであり、長崎大学の感染症研究・対策における獣医学領域との連携の拠点である。

## 施設の特色

本施設が隣接する共同利用棟内に、BSL3 設備を有する先端科学研究推進センター・感染制御研究部門及び共同獣医学部附属越境性動物疾病制御研究センターがある。本施設の1階にアニマルバイオセーフティレベル2（ABSL2）実験室のスペースを確保することで、既設のBSL2、BSL3、ABSL2 及び ABSL3 施設の効率的な共同利用及び密な連携により、治療薬開発で必須の前臨床研究が可能となり、部局横断的に人獣共通感染症における基礎研究から臨床研究までの一貫した感染症研究の推進が図られる。またインキュベーションルームの整備により産学連携推進のハブ拠点としての役割を有する。

## 利用のご案内

ABSL2 内の実験設備・機器及びインキュベーションルーム内設備・機器を令和7年度内に整備（一部令和8年度）し、令和8年度から利用開始予定。ワクチンや抗ウイルス薬の研究開発を目的とする企業並びに学内外の研究者の利用希望者を中心に幅広く受け入れる。

## 利用希望企業 募集中！

対象：新興再興ウイルス感染症治療薬に関する共同研究

# お問い合わせ先

鹿児島大学  
南九州・南西諸島域イノベーションセンター



099-285-8491



ksic-info@km.kagoshima-u.ac.jp



郡元キャンパス  
産学交流プラザ 2 F

